

2022 年度公益社団法人日本臨床細胞学会事業報告

1. 臨床細胞学に関する学術研究の推進並びに学術集会の開催

① 学術集会等を通じた研究・教育の普及および広報

1) 第 63 回 (2022 年) 春期大会 岡本愛光大会長

会期：2022 年 6 月 10 日(金)～12 日(日)

会場：グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール

2) 第 61 回 (2022 年) 秋期大会 伊藤潔大会長

会期：2022 年 11 月 5 日 (土) ～6 日 (日)

会場：仙台サンプラザホテル・ホテル仙台ガーデンパレス

② 班研究活動への助成による学術研究

2022 年度の班研究課題を公募し、1 題の応募があった。学術委員会選考会にて審議した結果、内藤嘉紀氏より応募された「胆汁細胞診における新たな診断区分の確立」が採用された。

③ 学会研究活動

「一般住民を対象とした子宮頸がん検診における液状化検体細胞診と HPV DNA 検査との併用法の有用性を評価する前向き無作為化比較研究 (CITRUS study)」について継続して研究を行った。

④ 学会賞・技師賞・最優秀論文賞の授与およびその論文発表

学会賞 (応募者 1 名)：廣岡保明

技師賞・学術部門 (応募者 2 名)：大河戸光章

技師賞・功労部門 (応募者 1 名)：前田ゆかり

最優秀論文賞 (応募者 和文 1 名・英文 16 名)：

日文：該当なし

英文：樋口佳代子

2. 臨床細胞学に関する教育普及事業

① 講習会およびセミナーの開催

講習会	開催日	開催地・実施委員長
第131回細胞検査士養成講習会	—	開催中止
第47回細胞診断学セミナー	(WEB講義)2022年9月9日(金) ～9月30日(金) (現地実習)2022年11月5日 (土)～11月6日(日)	Web開催 教育委員会委員長

第82回細胞検査士教育セミナー	2022年8月22日(月) ～9月5日(月)	Web開催 坪井病院 原田 仁稔
第83回細胞検査士教育セミナー	開催せず	完全webのため本年度は82回のみ開催
第84回細胞検査士ワークショップ	(WEB講義)2022年9月26日(月) ～10月11日(月) (現地実習)2022年10月2日	ハイブリッド開催 国立がん研究センター中央病院 澁木 康雄
第85回細胞検査士ワークショップ	(WEB講義)2023年3月13日(月) ～3月28日(火) (現地実習)2023年3月19日	ハイブリッド開催 久留米大学医療センター 阿部 英二

3. 臨床細胞学に関する渉外・広報事業

- ① 診療報酬改定に係る活動を行った。
- ② 子宮の日：都道府県にて子宮頸がん検診推進活動を行った。
- ③ ホームページやメールを通じての広報活動を行った。
- ④ 関連他団体との連携を行った。

4. 臨床細胞学に関する細胞診専門医並びに細胞検査士の資格認定、更新に関する事業

① 細胞診専門医、細胞検査士の資格認定者数、資格更新者数

- 1) 2022年度細胞診専門医
 - ・資格認定者数 116名
 - ・資格更新者数 706名
- 2) 2022年度細胞検査士
 - ・資格認定者数 245名(内学生受験合格者69名)
 - ・資格更新者数 1755名

② 教育研修指導医の資格認定

- 1) 2022年度教育研修指導医の認定者数 74名
- 2) 2022年度教育研修指導医の資格更新 94名

5. 細胞診断の質を維持、向上させるための施設認定、研修に関する事業

① 細胞診を用いた検診等を実施する団体等への施設認定、細胞診専門医を育成するための教育研修施設認定

- 1) 2022年度施設認定
 - ・新規施設認定 5施設
 - ・総認定施設数 874施設
 - ・認定資格更新 73施設(71施設更新可)

- 2) 2022 年度教育研修施設認定
 - ・ 新規施設認定 1 施設
 - ・ 総認定施設数 333 施設
 - ・ 認定資格更新 51 施設(49 施設更新可)
- ② 第 9 回コントロールサーベイ（外部精度管理）を実施した。
参加施設 846 施設
6. その他前条の目的を達成するために必要な事業
 - ① 国際細胞学会（IAC）の資格認定や連携（合同シンポジウムの開催など）。
 - 1) 2022 年度 IAC 資格更新 45 名
試験は 2022 年度実施無し
 - ② ゲノム診療時代における細胞診のあり方検討ワーキンググループ。
指針初版の英語版が Pathobiology 誌に受理された。引き続き、臨床細胞学会誌での掲載を検討している。並行して実証実験のまとまったものをもとに指針の改訂作業計画を立てている。ゲノム診療時代において、細胞診は DNA/RNA の重要なソースであることから、その品質保証についての実証実験を行い、様々な状況における細胞診検体における DNA/RNA 品質を検証する。
 - ③ 肺癌細胞診の診断判定基準の見直しワーキンググループ。
 - ・ IAC-WHO(IARC)が進める呼吸器細胞診国際基準の出版に協力した。
<https://tumourclassification.iarc.who.int/welcome/#>
 - ・ 日本肺癌学会とともに肺癌取扱い規約の改訂に協力した。
 - ・ 構造異型の所見の標準化を目指し、腺癌・扁平上皮癌の細胞診断の標準化（細胞診で腺癌と扁平上皮癌を鑑別するための構造所見の定義と細胞所見）WEB 公開した。
 - ・ 新たに提案した 4 段階の判定基準に関する検討を進めるため、呼吸器細胞診報告様式に関する研究を進めた。
 - ④ IAC Yokohama System 乳腺細胞診ワーキンググループ。
 - ・ 本邦におけるデータの収集を行い、解析を行った。多施設共同研究の成果を第 61 回秋期大会で発表した。
 - ・ 成果について論文化を目指している。
 - ・ 乳癌取扱い規約（日本乳癌学会）の改定に際し、掲載されるよう働きかけを行っている。
 - ⑤ 細胞診ガイドライン改訂ワーキンググループ。
 - ・ 2022 年秋期大会において、3 領域について解説を行った。
 - ・ 改訂案が完成し、改定内容を学会ホームページに公開した。
 - ⑥ デジタルサイトロジー・AI 検討ワーキンググループ。
 - ・ デジタルサイトロジー・パソロジーで導入状況の調査。
 - ・ デジタルサイトロジーを使用した診断・判定機器の調査。

- ・2022年度第1回、第2回デジタルサイトロジー・AI検討WG Web会議の実施。
 - ・「デジタル病理画像/運用ガイドライン(仮)」合同委員会(日本病理学会、日本臨床細胞学会、日本デジタルパソロジー研究会)。
- ⑦ 公益社団法人化10周年記念事業検討ワーキンググループ。
- ・理事長直属のワーキンググループにより3つの事業を開始した。
- その内容は
- ①記念講演会・祝賀会については、2024年4月28日(日)に東京国際フォーラムにて開催することを確認した。さらに、本学会の歴史、10周年に会を行う意義、招待者(学会等)、など今後については検討を続ける。
- ②記念誌編纂については、印刷体で製作すること、2023年をめどに完成することとし、執筆依頼を行った。
- ③広報活動については、キャッチフレーズを決めること、精度管理を含めた活動を行うこと、婦人科・細胞診断とは・非婦人科領域(ゲノム診療を含めた)の柱で進めること、他学会等との連携(委員を含め)を行うこと、SNS中心に発信すること、とした。
- ⑧ 膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループの設置。
- ・膵癌取り扱い規約では、「腹腔”洗浄”細胞診」ではなく「腹腔細胞診」と名称を統一することになっているため、ワーキンググループ名を「膵癌腹腔細胞診標準化ワーキンググループ」に変更することを通信理事会に提案し承認された。
 - ・膵癌取り扱い規約第8版「腹腔細胞診の実施法」の改訂についてワーキンググループ内で討議し最終案を作成し、通信理事会にて承認された。
- ⑨ 国際交流事業。
- ・JHU-ASC-JSCC joint cytopathology course 開催。
Tokyo, December 10-11, 2022
 - ・JSCC Companion Meeting
ボルチモアでのICC開催期間中にJSCC companion meetingを開催。
2022, Nov 19 (Sat.) 8:00-10:00
 - ・第19回日韓細胞診合同会議の開催。
2022年9月3日(土)(10:20-12:40・web)日本から34名参加。
- ⑩ 臨床試験(CITRUS studyなど)の遂行。